

「信州発！そのあとに続くすべての世代のために」 ～第67回全国人権・同和教育研究大会が開催されました～

11月21・22日の両日、全国人権・同和教育研究大会が、「信州発！そのあとに続くすべての世代のために」をテーマに、長野市で開催されました。東日本で開かれるのは、東京開催以来40年振りとのことで、小雪の舞う中、開会式と全体会の会場となったホワイティングは全国各地からの約8,000名の参加者で埋まりました。

コミわか人権教育部会からは5名が、参加しました。同和問題に長年取り組んでこられた研究者、行政職員、ジャーナリストなど、様々な専門家の方の講演は具体例に富む興味深いものばかりでしたが、中でも、当事者の立場からの講演に引き込まれました。子ども時代から続く心の葛藤、様々な理不尽な出来事が語られ、途中で示されたヘイトスピーチの映像にはとりわけ衝撃を受けました。

平穏に見える日常の中にも、人権に関わる問題は深く根を張っているのだと改めて気付かされた二日間でした。これから各地区で開催する研修会などに生かしていきたいと考えています。
(人権教育部会)



第5回自然観察会“バードウォッチング”を行いました



スコープ(望遠鏡)を担ぎ、えすりを追って落ち葉を踏み分けながら森の中を散策しました。



今日はどんな鳥が見られたのかな、図鑑と見比べながら講師の説明に熱心に耳を傾ける参加者の大人たちとメモを取る子供さん。

11月28日(土)、昭和の森公園において、第5回自然観察会“バードウォッチング”が開催されました。

講師に自然観察インストラクターの羽田收先生をお迎えし、14人の参加者とともに昭和の森の自然探索路を周遊しました。

木の葉が落ちた晩秋は野鳥観察には絶好の季節でしたが、この日の朝は冷え込みが厳しかったせいか、最初はヒヨドリしか見られませんでした。キツツキ科のコゲラやアオゲラの鳴き声が聞こえはじめ、観察会が終わる頃にはタカ科のノスリやシジュウカラなども見られ、17種類の野鳥を見ることができました。また、北部市民プールにはカルガモがたくさん飛来してきていて、鳥たちを驚かさないように遠くから望遠鏡で観察しました。

羽田先生からは、野鳥だけでなく、ヒメアオキやウバコリなどいろいろな植物を教わったりと、たくさんの自然とふれあう時間を過ごすことができました。
(自然環境部会)

第8回若槻自然遺産候補地見学会 実施報告 大地の恵みを肌で感じて

10月31日(土) 好天に恵まれた紅葉まった中の週末、第8回目の自然遺産候補地見学会が若槻地区北部の候補地を巡って実施されました。

髻山、八方峠は、アプローチの関係で車での移動。平出、袖の山側から入りました。

スギ林を抜けたクヌギ、ミズナラ、櫻の林に囲まれた髻山頂部は火山ドームです。嘗て山腹には髻石と呼ばれる安山岩の採掘場があったとのこと。

観音清水は髻山山頂直下に年中絶えることなく水が湧き出ており、その不可思議が謙信にまつわる伝説を生んだようです。

八方峠から入って鬼岩トンネルへ。落石の危険があるため現在はトレッキングコースからはずされています。「立ち入らないで下さい」の張り紙が仕切りのロープに下げられていますのでご注意ください。

なお、この見学会は調査として実施しているので、事前に下見し、更に直前1週間の天気・気象(特に雨、地震などの有無)を考慮して現地入りを実施しました。

風食によって生まれた奇岩は2箇所、見る人と位置によって、動物や人の顔に見えてきます。その荒々しさからやはり「鬼」に見えるのだれしもが納得させられました。

若槻地区に戻って、髻登山口の駐車場から新池、弁天池をめぐり、旧水道道路を散策しながら田子池を望み、道端のヒメアオキを確認して駐車場に戻り解散しました。

(自然環境部会)

参加者の一人東条の方から感想文が寄せられましたので紹介します。(実名は略させていただきます)

若槻東条に移り住んで30年、三登山・髻山には何度か登っていますが、「地元のことをもっと知りたい」という思いで「コミわか広場」が届いてすぐに参加を申し込みました。

まず向ったのは、平出から髻山へ。上杉謙信が髻山城に出陣した際水が不足し、千手観音を投じて祈願したところ清水がこんこんとわき出したという「観音清水」。手を切るような冷たさが神秘を更に深めてくれました。

鬼岩トンネルと奇岩群、トンネル内に現れた地層が縦になっている、奇岩群は迫力に満ちた自然の彫刻そのもの。

その後、古池、新池、弁天池、田子池をめぐり、快晴の秋日和に心洗われる眺望と出会い、若槻にこんな素晴らしいところがあるんだと感激して帰路につきました。

若槻自然遺産というネーミング、まさにその通りだと実感しました。



鬼岩トンネル
昭和10年に裾花凝灰岩の尾根をくりぬいて開削されたトンネルは、若槻と平出、袖の山を結ぶ最短コースとして利用されていました。



旧水道道路からの眺望
田子池の湖面は深まりゆく秋の空を静かに映していました。